

2006年(平成18年)3月31日(金曜日)

ニ ッ キ ン

機密文書管理、送信サービス

セキュリティリサイクル研究所が提供

金融機関など300社利用



北村 社長

【新潟】「個人情報保護法」の全面施行から1

年。機密文書管理などの外部委託先として、セキュリティリサイクル研究所(SRI)新潟市、北村慎一社長)が提供する個人情報などの保管、電送、破棄、不要文書のリ

サイクルサービスなどが注目されている。既に銀行・生保・証券など300社が利用、地元の第四銀行も不要文書のリサイクル回収ボックスを全店に設置している。同社は4月から日本版SOX法(企業改革法)に対応した財務書類の管理サービスも開始する。

SRIの特徴は、顧客から預かる重要書類の収集、保管までを一貫して行う点にある。施錠可能なセキュリティカーでの集荷、24時間体制の防犯管理、指紋個人判別システムと24時間モニターで入退室を監視する倉庫に保管する。

保管文書は企業名でなくバーコード管理。保管場所はランダムに割り当て一定期間ごとに配置が変わる。顧客からの必要書類の照会依頼には30分以内で同書類を電子化、暗号化し、スキヤナーで読み取り、Webシステムで閲覧できる「オンデマンド配信サービス」で対応。機密性が高くコスト削減できると好評だ。ある国内証券会社では紙媒体だけで100万件以上の顧客勘定元帳を顧客名、顧客番号などで同時にファイリング。当初の予想コスト1億円以上(すべて電子化の場合)を初期費用700万円、

維持費用が月約30万円です。またある外資損保は、自社管理の保険契約申込書などをSRI管理センターで検索整理し保管。年間2400万円の管理費用を4分の1の600万円まで下げた。

同社はリサイクル事業にも注力。不要な重要書類は機密文書回収ボックス「たまって箱」で集める。倉庫内の「機密文書破砕システム」に移しモニター監視下で処理。その後、製紙工場でコピー紙やトイレットペーパー「古紙光(こしひかり)」に生まれ変わる。

同社はプライバシーマーク、ISMS、ISOの3つの資格・認証を取得。10万箱の文書保管ができる倉庫は既に満杯。25万箱保管の新倉庫が3月末に完成するが、既に6万箱が予約済み。

個人情報などの漏洩問題が後を絶たない中、北村社長は「情報漏洩の90%強は自社内部から。金融機関の情報管理で業界トップを目指す」と話す。